

## 8. 応 援

## パトロールカーの効率的運用

’ 95.1 兵庫県南部地震 【事務所】

【事例】 大阪国道工事事務所のパトロールカーを兵庫国道に、大阪国道には奈良国道のパトロールカーを、というように隣接地域へと順次応援した。大阪国道ではパトロールカーが不足しタクシーを借り上げた。しかし、この車はパトランプをつけても警察が一般車と判断し、復旧専用車線を走らせてくれなかった。

(国道事務所長)

【反省・課題】 建設省のパトロールカーを、もっと多く他事務所から回してもらうようにすべきだった。

(国道事務所長)

【事例】 いろいろな方面にパトロールに出掛けるが、渋滞がひどいこともありパトロールカー自体が戻ってこられず、他の箇所へパトロールカーを出せないことがあった。普通のライトバンなどでは、パトロールに支障があった。

(国道事務所 道路管理第二課長)



路肩陥没現場にパトロールカーが到着（'03 宮城県北部地震）

隣接事務所はもとより、広域エリアでのパトロールカーの融通が大規模災害時には必要である。

## 応援は目的意識を持ち自己完結型で実施

’ 95.1 兵庫県南部地震 【事務所】【出張所】

**【教訓・アドバイス】** 応急対応時には、地元の土地勘のある者でなければならぬが、復旧段階では工事箇所にも長期間定着するので地理的知識は重要ではない。

(国道事務所 副所長)

**【教訓・アドバイス】** 食料・水持参等の自己完結型で応援に来てくれて有り難かった。弁当を届けるのも大変な状況であるので、応援は自己完結型で来てほしい。災害直後に応援に来てくれた事務所は、何をしたら良いかわからず住民からの苦情の聞き役となった。基本的には技術の職員が来ていたので監督などをしてもらい助かった。

(国道事務所 副所長)

**【事例】** 被害の程度によるが、初動の混乱期には、他地整からの応援者よりも同じ局内の事務所からの応援の方が、当該事務所に勤務経験があったり、勤務経験はなくても土地勘があったりして、説明が少なく済むなど、応援を頼みやすかった場合もあった。また、他地整からの応援者は、数日間で人が交代してしまい、県警との対応・出張所からの報告・問い合わせに対する指示等でその場を離れられない状況下で、その都度説明を繰り返すのが大変だった。

(国道事務所 道路管理第二課長)

**【教訓・アドバイス】** 応援者にも、交通規制など外回りの大変な内容をお願いすることもある（土地勘が無い場合などには逆にそういったことしか頼めない）。応援に来る人も、応援の目的意識をきちんと持って来るようにしてほしい。

(国道事務所 道路管理第二課長)

**応援者に適する作業内容を見極め活動してもらうことが必要である。**

**応援者は食料等も含め自己完結型で支援していくことが望ましい。**